平成30年度富士市立神戸小学校

学校関係者評価（報告）

1　前期学校評価に関する意見・提言

（1）評価日

平成30年11月16日（金）

（2）評価者

学校評議員　4人（欠席1人）

（3）意見・提言等

授業参観後、第2回学校評議員会を開催。授業や前期学校評価（自己評価）についての意見・感想等を伺う。

- ALTによる授業が新鮮であった。英語は小さいうちから楽しく学ぶべきである。
- ALTの生きた英語に触れることで、子どもたちの英語力が身に付くものだと思う。自分たちの頃の文法英語は、使い物にならないことを痛感する。
- 1年生がとても元気だった。こども園、保育園の延長のようであるが、団体行動を教える場として、みんなで一緒に活動する経験は必要。
- 先生方の目配り気配りが行き届いていることを感じた。子どもは誰もが自分のことを認めてもらいたいと思っている。
- 親が子供をどう育てたいか考えをもっている保護者がどれだけいるか。子どもの言うことを何でも聞きすぎて、しつけが行き届いていない子どもたちやその保護者を相手にしなければいけない先生方は大変であり、難しい時代となった。
- いろんなことを自由に経験できない環境により、自分から何かをすることができない子が増えている。本物に触れる神戸小の取組みは十分評価できる。
- 発達障害、学習障害の見立てにより、絶対的な勉強量（基礎基本）が少ない子もいる。家庭における支援が必要である。

２　後期学校評価に関する意見・提言

（１）評価日

平成 31 年２月 22 日（金）

（２）評価者

学校評議員　５人（欠席１人）

（３）意見・提言等

児童会行事（6 年生ありがとうの会）参観後、後期学校評価（自己評価）についての意見・感想等を伺う。

＜後期自己評価に関する評価＞

- 学校教育目標「つながろうやりぬこう」、重点目標「すすんでやる子」、皆が目標を共有して頑張ったことに成長を感じることができた。
- 「すすんでやる子」を育てるため、様々な経験をさせてほしい。
- 前期と比べて全体的に大きく変化したことはないと思うが、「学校生活が楽しい。」で教員の肯定評価が伸びていることと、「みんなと何かをするのが楽しい。」と思っている生徒が約 70％というのは素晴らしいと思う。児童と教員との関係がとてもよいということだと思う。子どもたちの学力を伸ばすこともちろん大事であるが、第一に学校生活が楽しいと思わなければ、その先には進めないと思う。
- 今後の課題として評価が低かった項目「自分の考えや意見をよく発表している。」「友達の考えや意見をしっかり聞いている。」を意識しながら取り組んでいくことを期待する。また、地域も温かく見守っていくことが大切だと思う。
- 本を読むことの大切さを親にもっと知ってほしい。
- 「学校生活が楽しい。」の評価で、児童の回答のうち、4.7％が否定していることが気になっている。
- 「みんなで何かをするのが楽しい。」の評価で、児童の回答のうち、4.1％が否定していることが気になる。
- 以前は散歩をしているときに下校時間の小中学生に出会うとあいさつをしてくれたが、最近はあいさつをする小中学生が少なくなっている。防犯上の理由から考えると仕方ないことかもしれない。
- 来年度から青少年指導員を教員から出さなくなるようだが、地域との情報共有をどのようにしていくのか示してほしい。

＜「6 年生ありがとうの会」の感想＞

- これまで見ることがなかった行事を参観させていただき、貴重な時間となった。どの学年も（教員も）発表に工夫が見られ感動した。子どもと教員との距離感が近いことが十分感じられた。